

道岳連だより

広報 NO.71
平成26年4月30日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-HAA.net/>

個人会員制度の検討を理事会に提案

「未組織登山者を掌握し、安全登山の徹底及び自然保護のマナーを啓発する」ことを趣旨とする北海道山岳連盟の個人会員制度の検討経緯が、3月16日開催の第3回理事会に提案された。

個人会員制度については、既報のとおり平成25年12月14日に開催された第6回常任理事会で検討委特別委員会が設置され、8名の委員が委嘱されている。第3回理事会に提案された内容は以下のとおりとなっている。

検討の経緯

- 1) 個人会員制度の検討（平成25年度総会「25年度に向けて」指針6）
【趣旨】未組織登山者を掌握し、安全登山の徹底及び自然保護マナーを啓発する
- 2) 12月14日常任理事会において特別検討委員会委員委嘱
検討特別委員 … 土屋（副会長）、神山（理事長）、明田（常任理事）、秋元（常任理事）、
荒堀（常任理事）、泉田（苫小牧）、「顧問」小野（会長）
- 3) 平成25年12月20日（金）第1回委員会
○個人会員制度の是非から検討すべき
ホームページ（HP）で個人会員制度の反応について予備調査をする
予備調査をすることを傘下山岳団体に周知し、意見があれば申し出てもらう
（苫小牧山岳会よりの意見抜粋）
・道岳連スタッフで賄いきれるか ・各山岳会が努力する問題 ・道岳連が個人会員を指導
していけるのか ・個人で拠り所を望んでいる人がいる ・道岳連の狙いは ・個人会員と
団体会員の権利の違い ・総会の代議員はどうなるか
- 4) 平成26年2月27日（木）第3回委員会
○アンケート結果 … 個人会員制度導入の方向で検討に入る

制度が出来た場合	入会する	検討したい	入会しない	回答総数
冬山講習会 Part I 参加者	8	5	0	13
冬山講習会 Part I 参加者	11	13	0	24
ホームページ HP	24	8	2	34
合計	43	26	2	71
率 (%)	60.6	36.6	2.8	

全国の状況

- 未組織登山者の現状 … 全国の組織内の登山者10万人に対し、未組織登山者800万人
道内でも道岳連会員2,000人に対し、未組織登山者は10万人を超える
- 日山協加盟山岳連盟・協会のうち、12都府県で実施を確認（年会費の状況）
東京都（¥6,000） 滋賀県（¥3,000） 秋田県（¥3,000） 広島県（¥3,000） 埼玉県（¥5,000）

神奈川県（¥7,000＋入会金¥3,000） 大阪府（¥3,000） 長野県（¥5,000） 京都府（¥3,000）
和歌山県（不明） 岡山県（¥3,000） 群馬県（ネット会員制） 千葉県（準備中）

個人会員制度検討特別委員会の提案

①アンケート結果などから「個人会員制度」への一般の要望があることから、道岳連は加盟団体の統括代表であることを踏まえ、「未組織登山者の組織化に取り組む」の目的（規約第5条4項）を実現するために「個人会員制度」を発足させたい。

【趣旨】「未組織登山者を把握し、安全登山・自然保護の啓発を図る」

②加盟山岳団体一覧表（団体名・事務局担当者・電話・メールアドレス・HPの有無）をホームページに掲載する。

③以上の提案が承認された場合の「道岳連規約」改定原案を次に示す（※）。なお合わせて、従来規約の不備な点を整理した。

※規約改定原案は、紙面の都合上割愛しました。第3回理事会議案を参照ください。

提案に対する出席理事の主な意見として「・制度が議論されて10年、やってみて結果が出る ・道岳連HPに傘下団体を表記し募集かけ、結果が出なければ制度開始を ・中高年登山者も組織に縛られたくないとの声聞く、それぞれの指向に考慮したグループ作り必要 ・山岳会の敷居を下げ魅力ある活動をすすめれば個人会員が会に戻ってくる」 などが出された。

これらを受け、小野会長、神山理事長は、多くの未組織登山者に遭難防止を呼びかけ、登山技術等を伝播していくのが道岳連の役割のひとつである。他の実施岳連の事例では、制度運用上の細則が極めて多岐にわたっており、これらに一年程要すると考えていると応じ、制度は検討特別委員会の提案を経て、今回の理事会で実質的に動き出した。なお、制度実施へ向けての動き出しは、総会の承認を受けてからとなる。

行事・各委員会事業報告

第3回理事会 3/16 札幌市民ホール

平成25年度第3回理事会は、3月16日(日)午前10時より、69名(委任状21)の理事が出席して札幌市民ホールで開催した。

提出議案は、第1号議案 平成25年度事業(経過)報告について 第2号議案 平成25年度会計(中間)報告について 第3号議案 平成26年度事業計画(案)について 第4号議案 平成26年度予算(案)について 第5号議案 個人会員制度について 第6号議案 任期満了役員改選について 第7号議案 北海道山岳連盟脱会申請について 第8号議案 諸報告についての8案件が提案された。

事業報告の中では、各委員会の一般事業報告のほか、3月に予定していた「山岳会活性化研修会」は応募団体が一団体で今年度は中止とした。山岳指導員養成講習による新規登録指導員は、アルパイン17名、スポーツクライミング10名。普及事業の一般参加者は夏77名、冬35名の計112名にのぼり、重複参加の60名を除く愛好



者のフォロー方策を考えている。旧美唄工業高校のクライミングウォールは市で管理することになり、今後も利用が可能となった。などが報告され、第2号、第3号、第4号議案とも原案通り承認された。第6号議案は、先に傘下各団体に候補者の推薦を通知したが、「一任、現職」以外、特定候補者の推薦がなかったため、会長候補 小野 倫夫(留任)、副会長候補 土屋 勲(留任)、佐藤 真(留任)、斎藤 邦明(新任)、監事候補 宮西 博(留任)、苅谷 勝利(新任)の各氏が常任理事会推薦候補となった。第7号議案は、平成25年12月25日付申請の士別山岳会、秩父別山岳会と平成26年3月31日申請の函館岳友会それぞれの道岳連脱退が報告された。

今回の理事会に、ソチ五輪のクライミングデモに参加した登攀道場美唄の奈良誠之さんが招かれ、昼食時間を利用して現地の状況やデモの様子などスライドを使いながら報告した。

山岳スキー指導員研修会 12/22-23 札幌国際スキー場・朝里岳

今年度の山岳スキー指導員研修会は、初・中級スキーヤー研修会を兼ねて、平成25年12月22-23日、札幌国際スキー場及び朝里岳周辺で実施された。

小野会長、明田指導委員長も含め総勢32名が参加し、二日間事故なく終了した。

研修会を終えて

朝日山岳会 岡田 成治

12月22日・23日に開催された山岳スキー指導員研修会に参加させていただきました。きっかけはアルパインクライミング指導員講習会(AC)を受講しており、今回の研修会や後に開催される氷雪技術講習会などに参加することが必須ということで、申込みさせていただきました。

スキーは昔から慣れ親しんでいるので、さほど抵抗はないものの、さて道具をどうするか、さっそく山岳スキー運営委員会の藤木さんにお伺いし、持ち合わせのないものを揃えることにしました。自分の年齢を考えると幾分迷いましたが、思い切って！流行のロッカースキー、ヘルメットなどを買っちゃいました。研修会に行くまで少し乗れるようにと地元のスキー場で2回練習しました。ここ3年ほどスキーに乗っていませんでしたから一抹の不安はありましたが、まあ何とかかなりそうなので自信を持って参加することにしました。

札幌国際スキー場に着くとAC受講生の皆さんがいるので一安心。私はA班でリーダーは荒堀(新得)さん、サブは美唄の山田さんが不参加となったため、オブザーバーの明田指導委員長が当たることになりました。受講生は9人、そのうちAC受講者が5人もいて心強いばかりです。ゴンドラで山頂に行きコース外で準備体操、方向転換の練習のあと、コースへ戻りいよいよターン練習です。プルーク、シュテム、パラレルターンと順を追って練習を行いました。また、今回リーダーを務める荒堀さんの指導も良く、あっという間に1日目が終わりました。

2日目は、白井岳の予定でしたが沢が埋まっていないため、コースを変更してゴンドラで山頂に行き、朝里岳方面に向かうことに、風はさほどないもののガスがかかり見通しはあまり良くなく、初めて参加した人は何処を歩いているのかわからない状況でしたが、リーダー・サブリーダーは地形も把握しており、適切なコース設定をしてくれました。また、途中で弱層テスト(ハンド)を各班で行ったあと、新雪深雪滑走の斜面に向かいました。ガスで見通しは良くないものの、雪面は最高のコンディション、3回滑ることができました。ロッカースキー最高。

AC受講生で今回参加をさせていただきましたが、ご指導いただいている道岳連の皆さん本当にご苦労様です。少しでも底辺を広げようと多くの指導者の方が真剣に取り組んでおられる姿、本当に熱いものを感じます。私が所属している朝日山岳会は素人ばかりの集まりで、天塩岳山開きの時にだけ活躍する市の職員を中心として構成されています。AC受講生として、また、この研修を通して教えていただいたものは、すごく大きく、地元に戻って山岳会の若者たちに少しでも還元できるように努めたいと思います。

ロッカースキー … 私も欲しい

こぶし山岳会 田中 清子

1日目はゲレンデで基礎練習…秋元リーダーから欠点を教えて頂き、今後の練習課題が見つかりました。宿舎に戻ってからは、コンパス地図読み・セルフレスキュー・雪崩で死なないために等の講習を受け、冬山に入る心構えを再認識させられました。

懇親会では、恒例の自己紹介です。皆さんの個性が爆発、「雪崩が怖い…同感」「ロッカースキー…私も欲しい」「山スキーをしたくて山岳会に入会…素晴らしい」山スキーへの熱い思いが伝わる刺激的で楽しいひと時でした。

2日目は白井岳に登る予定でしたが、雪が少なく渡渉が無理と判断し、朝里岳周辺での深雪滑走になりました。弱層テストとV字ショベリングの練習を終え、いよいよ深雪です。前日の降雪で雪質は上々、皆さん練習の成果を発揮しながら滑りを楽しんでいました。私は雪に入り込むばかりで前に進まず、深雪の難しさを痛切に感じた次第です。

美しい自然の中で、気持ちよく滑ることができたらどんなに素晴らしいでしょうか。それには練習と経験を重ねることが大事ですね。諦めず、希望を持って練習に励みたいと思います。次回の研修会では、もう少しスキルアップした姿を披露出来たらうれしいです。

2日間お世話になりありがとうございました。



弱層ハンドテスト

山岳スキー研修会 1/25-26 ニセコ花園エリア・羊蹄山

1月25日(土) 晴れ時々曇り〈ニセコ花園エリア〉

札幌からのマイクロバスを待って開会式。2班に分かれてアンヌプリ山頂近くへ延びているクワットに乗る。今日のテーマは「基礎スキー滑走から深雪スキー滑走への展開」。基礎スキーテクニクのどのパートが、山スキーパウダー滑りに特に有効なのかを探るもの。この時期には珍しい青空。アンヌプリ山頂が魅惑的に迫ってきている。1班7名(藤木L、西嶋SL)は満を持して山頂に向かう。2班8名(坂井L、山田SL)は開放された藤原の沢に期待する。だが、こちらの方は春の腐れ雪状態、悪雪帯に突っ込むという感じだ。晴天だが気温が高すぎるこの日のニセコ。明日の羊蹄山に期待だ。ゲレンデを何往復かした後、3時には今夜の泊まり場、札幌山の会京極山荘へと車を走らせた。

山荘での座学テーマも「基礎スキー滑走から深雪スキー滑走への展開」。山スキー中級以上の参加者、山田講師のDVD映像解説、パフォーマンスが盛り上がる。納得する人、そうではなさそうな人。山スキーは本当に奥が深い。次に全員がバスで向かったのは、京極町の鶴岡精肉店・焼肉特設会場。各種の肉に、魚が加わり、ビール、炭も豊富で会場は寒くない。お願いした時の最初の会話は、店主「夏しかやってないよ、寒いけど本当にいいの」。「心配ご無用、歳いっても山屋だもん」。

1月26日(日) 曇り〈羊蹄山京極コース・喜茂別コース〉

6時起床、朝食のサンドウィッチは全員が自分の分だけ作る方式。しかし、世話焼き担当2名と座学講師、計3名の体調が悪く、小屋番になった。(前日働きすぎ?違う)相談の結果、北こぶコースを中止、2班編成とした。山荘付近は風がなく、昨日同様気温が高い。羊蹄山全体がガスに覆わ

れ、先行きが怪しい天気だ。森林限界までにせよ、いい雪が残っているか不安である。

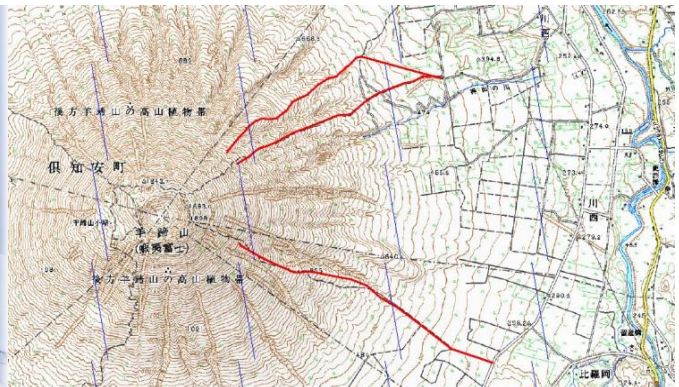
京極コース班 9名(西嶋 L)は 8 時山荘スタート。前日もしくは前々日と思われるトレースをたどり、10 時 50 分に森林限界少し手前 1100m 付近に到着。下界が見渡せ、風もあんまりなく、なんとかくるぶしまでのパウダーが残っていた。シールを外して滑走準備に入った。昨日滑ったトレースがさっと埋まった状態、足に負担が少ない予想以上の雪で滑りやすい。コースになれた S 川氏先頭に、要所々で止まり点呼、確認、そして山荘までは 1 時間で滑り終えた。ちょうど 12 時だった。

喜茂別コースの 5 名(坂井 L)は、京極コース班スタートの 30 分前に山荘を立つ。バスで喜茂別夏道口まで送られる。このコースは何と言っても均一な斜度。ところどころに広い斜面もあり滑りにはもってこいの地形だ。帰りの滑降に期待しながら登る。しかし、霰っぽい雪が降り始め、風も強くなりそうな空模様が変わり、1220m 行動ストップ、下山準備後、ピットチェックを各自が行う。雪質は最高ではないが、予想以上によい。満足。1 時に迎えのバスに乗り、30 分後には山荘に帰還した。2 時過ぎ、山荘で閉会式。参加者は道内各地へ。(みなさん！次回は 2/22-23、山岳スキー指導員検定会でお会いしましょう。)

報告 山岳スキー運営委員会 (担当：秋元節男、酒井まり子)



ニセコアンスプリ頂上



羊蹄山滑走GPSトラック

山岳スキー検定会 2/22-23 日勝峠周辺ゲレンデ

恒例の検定会を開催するにも、受験生の参加が危ぶまれたが少数精鋭の 5 名の方が参加。

一日目は日勝峠堀ゲレンデにて滑走講習、気温も例年になく穏やかではあるが、やはり午後からは寒い。予定通りのスケジュールで今日のお宿、国立日高青少年自然の家に着。4 時半から筆記試験に取り組む。その後食事・交流会と 10 時過ぎには就寝 (明日の実技試験がある為)。

翌日は、熊見山稜線から清水町旧日勝スキー場にダウンヒルしながら滑走検定会を行いました。雪質も良く 5 名の受講生は時折笑いもあるが、いざ本番となると真剣。

無事旧スキー場に到着。荒堀主任検定員より全員合格の発表後講評をいただき、現地で解散終了しました。

受講生 (準指導員；出江・佐川・加藤 リーダー；小川・東海林) 報告 藤木 たか子



山岳スキー技術研修・強化合宿「ドンとうまるごと・海別岳」は荒天中止

3月21～23日に予定されていた海別岳山岳スキーツアーは、暴風雪予報を受け中止となった。

中止に至る経緯は、①19日に斜里町役場に海別岳周辺の道路除雪状況の確認…18日の大雪で除雪に追われている、21-22日も暴風雪予報。国道は通行止めになる。②気象協会高層天気予報…22日の斜里岳(海別岳の隣り)の標高1500m付近 気温-16度、北北西の風18mで最悪の状態。21日の当地は35mの強風。③大雪で登山口まで数時間のスキー歩行になる。④登山計画書提出先の北海道警察から登山の中止勧告あり。

氷壁技術講習会 1/18-19 層雲峡 銀河の滝・錦糸の滝

今年の氷壁技術講習会が2014年1月18-19日の日程で行われ、講師2名と参加者6名の合計8名が参加した。

初日は12時ころより講習開始、この日は総勢7名。銀河の滝で基本的な技術のおさらい後、トップロープ2本を張り、何回か登ってもらい、最後にトップロープの状態でのリードの練習を行い15時頃終了。宿に戻り夕食後、基本的なアイスクライミングの机上講習を行いそのまま懇親会へ。夕食後に札幌より駆けつけた1名が合流。

翌日は総勢8名で、8時に宿舎を出て錦糸の滝へ向かう。昨日の参加者の技術や人数に余裕があり、少々レベルが高い所がいいかとの判断から場所変更とした。ほかのグループも来ており、トップロープを真ん中とやや右に張り、何回か登る。昨日より傾斜があり、みなさん苦戦するも何とか登りいい経験になったのではないと思う。

昼過ぎには解散し札幌、西興部、登別と各地へ向かった。人数や参加者のレベルで場所を変えた方が楽しめるようなので、来年も検討することにした。(報告 海外委員長 工藤 寛)



HTBと阿部幹雄さんの尽力で、2月12日の「イチオシ! モーニング」と2月26日「イチオシ! MIKIOジャーナル」で、札幌雪祭り大雪像取り壊しの朝、3人のクライマー(石井昭彦、石渡貴子、千葉敦久)による大雪像アイスクライミングの様子が放映された。



冬山講習会 part I 1/18-19 神居山・カムイスキーリンクス

1月18日(土)～19日(日)道岳連普及委員会の「冬山講習会 part I」は、会場を「カムイスキーリンクス」及び「北海道深川青年の家」で行い、一般参加者11人、会員5人、指導員5人そして道岳連理事長の参加があり、合計22人で実施しました。

参加内訳は、山スキー7名、テレマークスキー3名、スノーシュー6名、参加者年齢は39歳から68歳まで平均56.3歳と相対的に中高年が主体でした。

雨と暴風雪に見舞われた昨年のニセコとは大違い、今年は2日間とも寒さは厳しかったが晴天に恵まれ、風もなく絶好の講習会日和になりました。

1日目、午前9時30分、カムイスキーリンクスセンターハウス2階に集合し開講。スキー班、スノーシュー班ともにゴンドラに乗り神居山へ、ダケカンバに付着した「輝く樹氷」は蔵王の「モンスター」を彷彿とさせる素晴らしい光景の中、深雪での歩行、登行、方向転換、地図読み、コンパスの使い方、ビーコン操作などを行った。午後からのスキー班は、ブレーキング&停止などの危険回避技術、深雪での滑り方を中心に基礎的な実技講習を行い、午後3時に青年の家に移動。

夕食前に行った机上講習では、「私の登山への自戒7箇条」「冬山の装備」「地図の見方・コンパスの使い方」「雪崩の基礎知識」など2時間30分に亘って知識を深めました。講習会終了後は道岳連制作のDVD「北海道の山スキー」を鑑賞しながら交流会。

2日目は、神居山の東斜面を使い、パウダー滑走、弱層テスト、ビバーク訓練などを行った。カムイの寒さは超一流、おかげでサラサラのパウダースノー、積雪量は申し分なし。参加者一同パウダースノーを満喫した講習会となりました。

山スキー初級班に参加した人達は「深雪滑りが急に上手くなったみたいだ」「参加してよかった」と感想に実感がこもっていました。午後3時閉講、記念写真撮影後「日高で再会」を合言葉に散会しました。
(報 告 普及委員長 荒堀 英雄)



「冬山講習会 part I」の講習を終えて

千歳山岳会 本宮 敬士

このたび、公認山岳指導員(アルパイン)資格取得の一環として、貴講習会を受講させていただきました。ありがとうございます。

受講するにあたり、私が特に関心がありましたのは、受講者の皆さんは山岳会出身の方もいれば、個人でそれなりの山歴をお持ちの方、全く冬山初体験の方がいるなかでの指導方法にありました。

この講習で一番感じたことは、講師の方々が一様に笑顔を見せていただいていたことが、大変印象

的でした。そのリラックスした雰囲気のおかげ、実技ではみなさん積極的に質問され、講師も教科書的模範解答ではなく、実体験を交えて返答されたことが印象深く、またその方がより記憶に残るものだと思うとともに、私自身まだ経験が浅く、興味がわくような回答をできるか不安になり、やはり山は経験なのだとはあらためて感じました。

講習内容についてですが、スノーシューコースは地図読みがじっくりでき、初日よりコンパスの使用法など教えられたことを実践できる二日目の方がみなさん興味を持って受講されているように感じられ、野外での講習会で初日の日中は実技という日程は仕方ないのですが、今回のスノーシューコースは、装着もままならない冬山初体験の方がいましたので、この度は一名でしたがこれが複数名になった場合、可能であれば屋外で短時間でもいいので実技の前にスノーシュー



宿舎での机上講習

の付け方など、基本中の基本講習のような時間があれば、より落ち着いて受講ができたように思われたとともに、反面、一部にとらわれては全体の講習がままなくなるという、講習運営の難しさを考えさせられました。

また、研修所の座学は大変立派な手作りテキストを頂戴し、自戒7箇条、地図の見方、冬山装備、雪崩対策、いずれも教えを受けたい内容でありましたが、研修所の規則上短時間で終わってしまい、少々残念ではありましたが、座学終了後の合間を縫って質問した際、明快な回答をいただきありがとうございました。

このたび、私のような素人が諸先輩の行っている講習に対し感想を述べるなど、大変おこがましいとは思いつつ、好き勝手に書かせていただき誠に申し訳ありません。簡単ではありますが、これを私の感想文とさせていただきます。今後とも宜しく願いいたします。

「冬山講習会 part I」に参加して

札幌市中央区 加我 晴生

平成26年冬山講習会に参加した目的は、講習会を通じて山スキーを安全に楽しむための基礎を習得することです。参加することになった引き金は、発刊直後の2012年暮れに入手したDVD「北海道の山スキー」です。会場のカムイは、1月18日、19日ともに快晴、深雪ほどではないが快適なパウダースノーで、ほとんど講習ということをおぼろげに忘れてしまいました。

私の場合、登山のために登頂後の下降手段として、スキーを利用する本来の山スキーというより深雪パウダーを楽しむことを目指しております。パウダースノーのみならず多様なコンディションでも深雪滑降をエンジョイできることを願っており、そのために山に登ることになります。従って、必ずしもというかほとんどの場合、登頂を目指しているわけではありません。一般的には山スキーというより、バックカントリーと呼ばれているようです。でも言葉としては、やはり山スキーの響きが好きです。

長いブランクの後、数年前に山スキーを再開した際「還暦過ぎても山スキーをエンジョイしている」、さらに「七十台になっても深雪滑降を楽しんでいる」、この二点を具体的目標として掲げました。還暦は目前なので、何としても達成したいところです。私にスキーを教えてくれた先輩方は、現在七十台ですが、残念ながら皆さん還暦を境にスキーを卒業してしまいました。ですが、本講習会において七十代で山スキーを普通にエンジョイしておられる理事長のお姿を目のあたりにして感激しました。「鍛え方が違うよ」と、一言で片づけられそうな気がします。なんの裏付けもないのですが、私も目標が達成できるかもしれないという元気が湧き上がってきました。ありがとうございます。

冬山講習会 part II 2/8-9 日勝峠周辺・ペケレベツ岳他

今年度最後の「冬山講習会 part II」は、2月8日(土)～9日(日)「日勝ピーク周辺、ペケレベツ岳、沙流岳」「国立日高青少年自然の家」を会場に実施しました。

一般19人、会員6人、指導員・スタッフ7人及び道岳連会長と33名の参加。

1日目、午前9時30分、国立日高青少年自然の家に集まり開講する予定だったが、札幌から参加者を乗せたバスは高速道路の事故などで、1時間ほど遅れるハプニング。この日は日本列島をスッポリ被う高気圧に恵まれ、寒さは超一級だったが、「真っ青な抜ける青空」の中、山スキー初級班・中級班は日勝峠周辺、山スキー上級班・テレマークスキー班はペケレベツ岳方面の沢までのツリーラン、スノーシュー班は昨年のリベンジと熊見山へ、地図、コンパス、弱層テストなどの実践を行った。

午後4時に青少年自然の家へ移動し、夕食前後2時間30分、会長の「講話」「冬山の装備」「地図・コンパス」「雪崩の知識」「気象・ビバーク」と道岳連会員の講習に匹敵するレベルの高い内容となった。午後8時からの交流会では、道岳連制作のDVD「北海道の山スキー」を鑑賞しながら、賑やかに談笑となった。

2日目は、低気圧の接近で一転して荒れ模様、気温マイナス10°に加え10mの強風は冬山の過酷さを味わうには十分過ぎるほどであった。スノーシュー班では、吹雪の中で実践した「ビバーク」訓練を行い、遭難防止の有効手段であると理解を深められた模様である。スキー班は、ペケレベツ岳、スノーシュー班は沙流岳を目指したが、悪天候に阻まれ共に山頂は極められなかった。次回のリベンジを誓うこととなった。

冬山の厳しさを存分に体感した参加者は、日高青少年自然の家をバックに記念写真を撮り無事散会した。

日高青少年自然の家の前で記念撮影



冬山講習会にスノーシューで参加しました

釧路山友会 根岸 美智子

1日目は、熊見山を目指しながら、雪底を踏み抜かないためのポイント、トップを歩く時のコースの取り方・歩くペース、コンパスの使い方などを教わりました。合間には、山ウサギの習性を交えたお話もあり、好天の中、良い汗をかきながら、冬山の楽しさを味わいました。

宿舎に戻ってからは、地図の見方・コンパスの使い方、冬山装備、雪崩対策、気象についてとてもわかりやすく教えていただきました。

2日目は、サングラスが凍るほどの寒さの中沙流岳を目指しましたが、悪天候の為、途中で断念。ストックを雪面に置いての道迷いの防止法や雪洞づくり、弱層テストの実技を教わりました。



熊見山への稜線(8日)

登った事のない沙流岳に登れなかったことは残念でしたが、好天・悪天候の両方を経験できた事は、勉強するうえでは良かったと思い、苦手だった地図読みやコンパスの使い方も身につける事ができました。また、講師の方の体験に基づくエピソードもとても貴重なものでした。雪山は素晴らしく、楽しい反面、厳しさや危険との隣り合わせでもあり、改めて技術や知識の習得の大切さを痛感しました。

今回が初めての参加でしたが、様々な地域の方達との交流も楽しく、たくさんの事も教えていただき、とても充実した二日間でした。

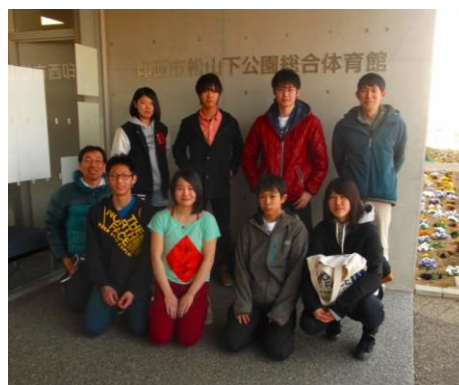
また是非参加したいと思います。どうもありがとうございました。

JMA クライミングユース選手権 2014 3/22-23 千葉県

JMA クライミングユース選手権 2014 は、3月22-23日千葉県印西市で開催され、北海道からは、道内予選を勝ち抜いた7選手が出場した。

〈北海道選手の成績〉

男子	松浦 凌 (遠軽高校2年)	ユースA 6位
	武者 知希 (江別高校1年)	ユースA 10位
	岸本 武蔵 (美唄尚栄高校1年)	ユースA 17位
	白戸 隆雅 (札幌真栄高校1年)	ユースA 31位
女子	小武 芽生 (北星学園女子高校1年)	ユースA 2位
	佐々木里穂 (北海学園札幌高校2年)	ユースA 10位
	亀田 桃子 (遠軽高校2年)	ジュニア 13位



〈畑野監督の大会レポート〉 ※3/23 決勝分のみ掲載 (会場 印西市松山下公園総合体育館)

決勝には3人が進むことになった。男子の決勝進出は4年ぶりであり、道内での強化策が実を結んだ結果と言える。決勝ルートは男子が13b、女子は12d/13aとのことである。まずは松浦、リーチもあり手も大きい彼には適したルートであり、13手目までは順調に進む。レンジ手前でレストを入れ、2、3度体制を整えて飛び出すがつかみきれず13+で6位。しかし見事な健闘であった。続いて武者、下部は大きなスローパーを遠くつなぐルートである。40秒のオブザベを充分に使い、途中ではめったに入れないレストも入れ、14手目の核心へのレンジに備えるが、飛び出す前にフォールしてしまい13手。10位であったが、全国大会2回目の出場での決勝進出は見事であった。

女子ユースA決勝には小武、女子には遠いかと思われるホールドも難なく保持し、いつも通りの正確で柔らかいムーブで進む。最上部の核心パートも力強く突破し、またしても完登で締めくくる。順位は同じく完登の田嶋にタイム差で敗れ2位であったが、今年度は、国体からの全国大会全てで全完登を果たし、驚異の安定感であった。

大会を振り返ると、北海道チームは男子の決勝進出者が誕生したことが最大の成果と言えよう。他にも岸本が左ルートで12位に入り、男子の層が厚くなってきたことを示



せた。女子は小武、佐々木の2枚看板に続く選手が待たれる。特に国体に向けては、今後の二人の動向をふまえ、女子選手の強化が急務である。大会二日間を通じ、お互いの応援や大会参加の態度など、北海道チームとしての自覚も高く、成果が大きかった。今後の選手育成にもさらに努めていきたい。なお、期間中誕生日を迎えた武者に対し、チームメイトからのサプライズパーティが開かれたことを追加して記す。

JMA ボルダリングジャパンカップ 2014 2/22-23 静岡県

JMAボルダリングジャパンカップ2014は、2月22日-23日静岡市のクライミングJAM東静岡で、男子100名、女子38名の選手が参加し開催された。

北海道からは杉本 怜選手が男子で堂々2位、小武 芽生選手が女子で5位に入賞した。

大会最終成績のリザルトは、道岳連HPに掲載。

… BJCにおける杉本選手らトップクライマーの激闘の様子は「登山月報」3.15号一面に掲載 …

ソチ五輪でアイスクライミングデモ

ソチオリンピックと同時にソチにおいて、UIAAとロシア山岳連盟が主管してアイスクライミングのデモンストレーションが行われた。

世界各国からの選手が参加、日本からは日山協派遣の奈良誠之選手が出場した。

将来オリンピックの種目になることが期待される。



HTB 放映画像より掲載

(日山協HPより)



奈良誠之選手

☆詳細は「登山月報」3.15号参照

リーフレット 北海道山岳連盟講習会2014ご案内 作成

初心者や未組織登山愛好家に向けた道岳連主催事業のリーフレットが4月下旬に発行される。

内容は一般募集の10事業プラス若年層向けの企画で、道岳連及び加盟山岳連盟・山岳会の一覧も掲載し、連絡先等は道岳連HPとリンクさせる。

今年度は6000部発行し、会員、関係機関・団体、登山用具店などの配布する予定。

今後の諸行事

日高登山研修所開き

1. 期 日 平成26年4月19日(土)～20日(日)
2. 会 場 北海道山岳連盟日高登山研修所
3. 参加料 3,500円
4. 日 程 19日 12:30 受付～開会式・所内外大掃除～研修～各委員会議～懇親会
20日 8:00 幌内丸山・上滝山現地研修、ボルダリング、応急手当研修
14:00 閉会式・解散

平成26年度 道岳連定期総会・第1回理事会

1. 期 日 平成26年5月11日(日) 午前10時開会(閉会午後3時頃)
2. 会 場 札幌市民ホール
4. その他 理事・代議員の出欠確認ハガキの返信期日 4月20日

夏季遭難対策研修会 遭難対策委員会

1. 期 日 平成26年5月24日(土)～25日(日)
2. 会 場 国立大雪青少年交流の家・十勝岳
3. その他 一般及び道岳連会員対象事業(実施要項 近日配布)

予 報

登攀研修 (指導委員会)	6月1日(日)	室蘭
沢研修 (指導委員会)	6月29日(土)～30日(日)	会場未定
夏山講習会Ⅰ(普及委員会)	7月5日(土)～6日(日)	暑寒別岳
女性リーダー講習会(指導委員会)	7月19日(土)～21日(祝)	十勝岳～トムラウシ山
夏山講習会Ⅱ(普及委員会)	7月26日(土)～27日(日)	十勝岳～美瑛岳

道岳連だより 北海道山岳連盟広報 No.71 平成26年4月30日発行

発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区平岸2条9丁目1-47-502

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄